ことから、16年度に国土交通省と協議を進め、共同工事により19年末に応急対策として排水施設を設置。水路の水位が上昇したときに六丁四反水路の上流部分の雨水を

恒久的な浸水対策として下流部から六丁四反水路を改修

排水ポンプにより東宝珠花地先の江戸川へ排出するもので、毎秒1トンの排水が可能なポンプを2台設置し、その能力は16年の台風22号規模の雨量に、対応できる設計です。

排水ポンプ設置で東宝珠花を中心とした浸水の被害を大きく改善

さらに20年度から下流の関宿高校前の水路改修工事を進め、順次水路全体を拡幅することで、浸水被害を防ぐものです。

関宿地域と川間駅方面を結ぶ江戸川左岸連絡道路

江戸川左岸連絡道路は、昭和62年に東宝珠花から尾崎地区まで江戸川沿いを南北に整備し、関宿地域から川間駅方面へアクセスする重要な道路です。

しかし、東宝珠花から岡田地区まではセンターラインのない4・5メートル幅で、尾崎地区から東金野井地先までは6メートルの二車線道路のため、交通の流れの妨げになることや、対向車同士の接触事故、朝夕の通勤通学時の混雑など地元住民から道幅拡幅の要望が寄せられていました。

市では多くの要望を受け、新市建設計画のひとつとして江戸川左岸連絡道路整備を平成16年度から着工し、岡田地区から北約3千400メートルの道路幅を、7メートルに拡幅しています。

また、21年4月には日枝神社付近まで、さらに21年度は東宝珠花の排水ポンプ場付近まで工事が進み、全体の約87パーセントが完了します。

県道の渋滞も解消されました

江戸川左岸道路が拡幅整備されてきたことにより、県道結城野田線を利用して、川間駅に行く車が減り、渋滞が緩和されました。また、通勤・通学時間が短縮され、便利になったという声も耳にします。従来の関宿地域の江戸川左岸道路は道幅が狭く、車のすれ違いには気を使いましたが、拡幅工事が進んできて、渋滞が解消され、事故の危険が少なくなっていると思います。

東宝珠花上自治会長
野村一義さん